TWIN RING MOTEGI

MEDIA INFORMATION

2010 年 7 月 17 日
株式会社モビリティランド
ツインリンクもてぎ

INDY® JAPAN 300 mile
2010年インディカー・シリーズ 日本人ドライバー前半戦の戦い

アメリカ最高峰のオープンホイール・レースシリーズであるIRL（インディ・レーシング・リーグ）インディカー・シリーズは、7月4日の第9戦ワトキンス・グレンを終了し、7月18日の第10戦トロントから後半戦に突入する。

全17戦の2010年インディカー・シリーズには、武藤英紀（27）、佐藤琢磨（33）のふたりの日本人レーシングドライバーが日本人初優勝をターゲットとして果敢な挑戦を開始している。

いよいよ日本のレースファンが楽しみにする9月19日の第16戦インディ・ジャパン300マイル（ツインリンクもてぎ）まで、およそ2か月となった。

ふたりの日本人レーシングドライバーのシリーズ前半戦の戦いをここで振り返っておきたい。

武藤英紀は、インディカー・シリーズのフル参戦3年目の今年こそ、初優勝を獲得してみせるとの意気込みで、シーズン開幕戦サンパウロにのぞんだ。名門ニューマン・ハース・レーシングへのチーム移籍も気分を一新させる大きな材料であった。すでに 2008 年第8戦アイオワで2位に入賞している武藤にとって、次の獲得目標は表彰台の真ん中に立つこと、すなわち優勝しかない。

一方の佐藤琢磨は、インディカー・シリーズの文字通り大型ルーキーであった。2002年からF1グランプリで活躍し、知性派ファイターと呼ばれ、2004年のアメリカF1グランプリ（インディアナポリス・モーター・スピードウェイ）でB・A・Rホンダを駆って3位に入賞している。インディカー・シリーズへ初挑戦するにあたっては、持ち前のファイティングスピリットを燃やしつつ、未経験のオーバルコースへの慎重な姿勢をみせた。所属するチームはチャンプカー・チャンピオンのジミー・バッサーがひきいるKV レーシング・テクノロジーである。

第1戦サンパウロの公道レースでは、武藤と佐藤ともに、予選から荒れた路面に悩み、マシン・トラブルに翻弄され、スターティンググリッドは武藤14番手、佐藤10番手となった。決勝レースでは、デビュー戦で奮闘する佐藤がスタート直後にクラッシュしてリタイヤに追い込まれた。武藤もまた6位まで浮上する活躍をみせたが、急減速した前車を避けようとしてスピンしガードレールにクラッシュしリタイヤした。レース結果は実りがなかったものの、ふたりの日本人ドライバーのやる気が伝わってくる開幕戦となった。

続く第2戦セント・ピーターズバーグも公道レースである。予選は佐藤が善戦し、第2ステージまで駒を進めて上位進出を狙うが、マシン・トラブルで足をすくわれて11番手となる。武藤は第1ステージで僅

かなミスでクラッシュをしてしまうが、スペアカーを使って12番手を確保した。決勝レースでは武藤が奮起し2位まで浮上してみせるが、最後のピットストップでクラッチ・トラブルに襲われて順位をおとし14位で完走する。佐藤はスタート直後から9位につけるが、フロントタイヤのグリップを失ってバリアにクラッシュしリタイヤに終わった。

第3戦は初開催となるアラバマである。その舞台は常設サーキットのバーバー・モータースポーツパークであった。佐藤はデビュー3戦目にして予選ファイナル／ファスト6まで進出し6番手を手に入れ、ロードコースでの強さをみせつけた。
武藤は不運であった。第1ステージのタイムアタックに飛び出したとたんにフルコース・コーションが発生し、速さを発揮するチャンスを失って17番手である。武藤は不運の流れを断ち切れず、決勝レースでもフルコース・コーションを利用した作戦が裏目に出て15位完走にあまんじる。好調であった佐藤は7位につけて上位進出を狙っていたが、11周目にアクセルワイヤーが切れるというトラブルでコース上にストップしてしまう。
セーフティーカーの牽引でピットにもどり、修理してレースに復帰するファイトをみせたが、25位の最下位でレースを終えた。

今年2010年のインディカー・シリーズは開幕から第4戦ロングビーチまでロードコースのレースが続いた。伝統あるロングビーチの公道コース予選では、佐藤はマシンのセットアップに悩み、19番手に低迷する。予選ファスト6を狙った武藤は、第1ステージを勝ち抜き第2ステージまで進んだが、強豪たちを出し抜くことが出来ずに11番手となる。決勝レースではソフトコンパウンドのレッドタイヤとマシンの相性がわるく武藤は苦しみながら13位で完走した。佐藤は奮闘していたが、コントロールを失ったマシンにヒットされてスピンし、大きく遅れたまま18位でレースを終えた。
開幕戦からロードコース4連戦を戦ってきた日本人ドライバーのふたりは、いまひとつ波に乗れなかった。実力を発揮する納得のいくレースが出来ていない。

武藤、佐藤ともにいいレースを見せた
今期初オーバルのカンザス。今後のオーバルでのレースに大きな期待を感じさせた。

第5戦カンザスは、今シーズン最初のオーバルレースとなった。オーバルレースの経験を積んで自信をつけてきた武藤は、見事にその実力を発揮して予選4番手を手に入れてみせ、一気に波に乗るチャンスをつかんだ。オーバルレース初挑戦の佐藤は、ルーキーテストをクリアして予選にのぞみ、ハイスピードのオーバルレーシングに少しも怯むことなく予選11位となった。武藤と佐藤はともに決勝レースでも好調を維持していた。武藤は4位まで順位をあげて表彰台を狙うレース展開をみせていた。佐藤もまた6位を走るほどのスピードをみせて期待をもたせた。しかし好事魔多し。200周のレースの186周目に、5位につけていた武藤と6位にいた佐藤が接触して、ふたりともクラッシュしてしまう。武藤の直前を走っていた周回遅れのマシンがアウト側にふくらんできたために、武藤と佐藤の行き場がなくなり、接触してしまったのだ。まことに残念な結果

となったが、次戦の第94回インディアナポリス500マイル・レース（通称インディ500）への期待をふくらませる武藤と佐藤のレース展開であった。

世界でもっとも長い歴史を誇る自動車レースであるインディ500は、今年から予選が4日間から2日間に短縮され、2段階方式に予選ルールが変更された。武藤は難なく第1段階から第2段階へと駒をすすめて、9番手となった。2008年同様の3列目アウト側のスターティンググリッドだ。佐藤は公開練習の最後でスピンし、ウオールに激突して、予選第1日に出走できなくなった。予選第2日には出走し、決勝進出33台のうち31番手で、からくも予選を通過した。好調を伝えられていた武藤だが、決勝レースがスタートしてみると原因不明のハンドリング不良に襲われた。どうやら気温上昇が原因らしい。何度もピットインしてセットアップ変更をこころみるが、いっこうに改善することなく、ずるずると順位をおとしていき、残念ながら76周でリタイヤした。

1 周の距離がシリーズ最長、2.5 マイルのｲﾝﾃﾞｨｱﾅﾎﾟﾘｽ・ﾓｰﾀｰ・ｽﾋﾟｰﾄﾞｳｪｲ。約 100 年の歴史を誇る世界最古のレース。

インディ500初挑戦の佐藤は、15位まで順位を上げたが、ピットストップでのルール違反で15秒停止のペナルティをうけるなど苦戦したが、頑張り抜いて20位で完走した。

インディ 500 予選では独特のルール、バンプアウトが行なわれる。佐藤はその雰囲気に飲まれることなく、予選をクリア。

第7戦はテキサスである。24度という深いバンクの 1.5 マイル・オーバルコースだ。オーバルコースで調子をつかんで波に乗りたい武藤は、予選7番手となる。この7番手をジャンピングボードにしたい武藤だ。3戦目のオーバルレースとなる佐藤もまた積極的に予選を走り、11番手につけた。決勝レースでは、オーバーステアに悩まされた武藤だが、チームが一丸となって頑張り抜き、12位でゴールした。佐藤もまたフロントタイヤのグリップ低下に苦しみ、ピットストップでセットアップを変更するなど挑戦を続けていたが、左リア・サスペンションが突如として壊れ、クラッシュしてしまうという結果になった。

全長0．894マイルのショートオーバルで開催される第8戦アイオワは、武藤が得意とするレースである。2008年は2位、09年は3位と2年連続で表彰台に立っている。だが、今年は苦戦であった。レース1週間前のアイオワ・テストではハンドリング不調に悩まされたあげくに、クラッシュしてしまう。マシンを修理して予選にのぞむが、グリップ不足のために、25台中24番手にあまんじる。佐藤は初めてのショートオーバルレース挑戦であったが、予選7番手となり、4レース目のオーバルレースでトップ10入りをはたしてみせた。決勝レースまで武藤の不調は続いてしまい、完走をめざしてスタートしたものの、ハンドリング不調は深刻でリタイヤせざるをえなかった。佐藤はショートオーバルの走法を会得したのか、3位まで順位を上げるほどのレース展開をみせて期待をもたせたが、周回遅れのマシンを抜くときに乱

気流をあびてしまい、フロントタイヤのグリップを失ってクラッシュした。
　4レース続いたオーバルレースでは、武藤も佐藤も、あと一歩なのに、どうしても波に乗れない、好調さを維持出来ないというレースをみせた。

　全17レースで構成される2010年インディカー・シリーズの前半後半をわける第9戦はアメリカ伝統の常設ロードコースであるワトキンス・グレンである。原因不明の不調に苦しむ武藤は、そこから脱出しようともがいている。しかし不運の連鎖が断ち切れない。予選でのタイムアタック中に遅いマシンに引っかかり、14番手となる。ロードコースは手の内にあると認識している佐藤は予選5番手を手に入れた。インディカー・シリーズ初挑戦の今シーズンでは最高の予選結果である。決勝レースでは、武藤が淡々と頑張った。不振を跳ね返すのは努力しかないと考える武藤らしい粘り強い走りをみせて12位で完走した。上位フィニッシュを狙う佐藤は4位まで順位を上げるが、ピットストップ作業で時間を食われて順位をおとしたところから調子を崩し、15位完走となった。

　第9戦を終えてシリーズ後半戦にチャレンジする武藤英紀と佐藤琢磨への期待は高まるばかりだ。シリーズのポイントスタンディングは、武藤が136ポイントで38人中18番手、佐藤が110ポイントで22番手につけている。
　武藤英紀は悲願の初優勝しか眼中にないであろう。それは日本人レースファンの期待そのものだ。後半戦は、ぜひとも心機一転して実力を発揮してほしいところだ。
　佐藤琢磨はルーキー・オブ・ザ・イヤー獲得の戦いの真っ最中だ。第9戦を終えた時点でポイントスタンディング19番手125ポイントのブラジル人ドライバーのマリオ・ロマンチーニ（22）と、20番手121ポイントのスイス人女性ドライバーのシモーナ・デ・シルベストロ（21）と三つ巴の戦いを展開している。
　シリーズ後半戦は第10戦から第13戦まで4戦連続でロードレース、第14戦から第17戦までが4戦連続のオーバルレースとなる。
　武藤英紀にも佐藤琢磨にも、どちらにも優勝のチャンスありと日本人レースファンの声援の声はますます大きくなっている。

　今週末、7 月 18 日（日）には、カナダ・トロントでシリーズ第 10 戦が開催される。